

あすコロ式

白分解体新書

～本当の自分編～

(太陽星座)



牡牛座

(おうし座)



あすとろサイコロ

ascolo.jp



① はじめに

実は、人はだれでも、自分の本当の望みとか、生きる目的というものが、あらかじめビルト・インされて生まれてきています。

それを「使命」とか「運命」とか「自己実現」ということばで言われることもあります。それがあなたの「太陽星座（テレビや雑誌の星占いに出てくる『〇〇座のあなた』）」に「なりたい人物像」として記されていると、あすコロサイコロでは考えています。

この「なりたい人物像」こそが、“本当の自分”なのです。

でも、私たちは生まれてすぐに“本当の自分”を生きられるわけではありません。子どもは、まだ一人で生きていくことができませんよね。

だから、まずは親（先祖代々続く家系）や周りの大人・社会に守ってもらう必要がある。

その過程で、知らず知らずのうちに「こうあるべき」「こうせなあかん」という価値観を無意識に受け取っていきます。

これがあなたの「月星座」に“偽りの自分”として記されているのです。

太陽と月、どちらも同じあなたの中にあるものですが、性質は正反対。

太陽が「自分で選び取るもの」だとすれば、月は「気づかないうちに受け取ってしまったもの」。

そして厄介なことに、この月が、本当の太陽の姿を覆い隠してしまう。

つまり、“偽りの自分”が“本当の自分”を覆い隠していて、知らない間に自分を苦しめていることがあるのです。

“本当の自分”を追求すれば喜びが得られますが、“偽りの自分”は追求するほど苦しくなっていく。

だから、どこかのタイミングで、“偽りの自分”を卒業して、“本当の自分”を生きたいと思うようになっていくのです。

人には生まれながらに、いくつかの決まった性格パターン（元型）が備わっている——この考え方は、分析心理学の祖、カール・ユングが提唱した「元型（アーキタイプ）」の概念とも通じるものがあります。

あなたの太陽星座は「牡牛座」。

ここから先は、牡牛座という星座に込められた「なりたい人物像」を、この一冊まるごと使ってじっくりと掘り下げ、日々の具体的な実践方法まで含めて紐解いていきます。

② あなたの支配星とエレメント

牡牛座は、4月20日から5月20日生まれの方の星座です。

春分の「宇宙元旦」から始まる12星座のサイクルで、トップバッターの牡羊座の次、2番目にやってくるのが牡牛座です。桜が散って、新緑がぐんぐん育ち、大地がいちばん豊かに息づきはじめる季節ですね。

🔍 星座（サイン）は「太陽の通り道の住所」

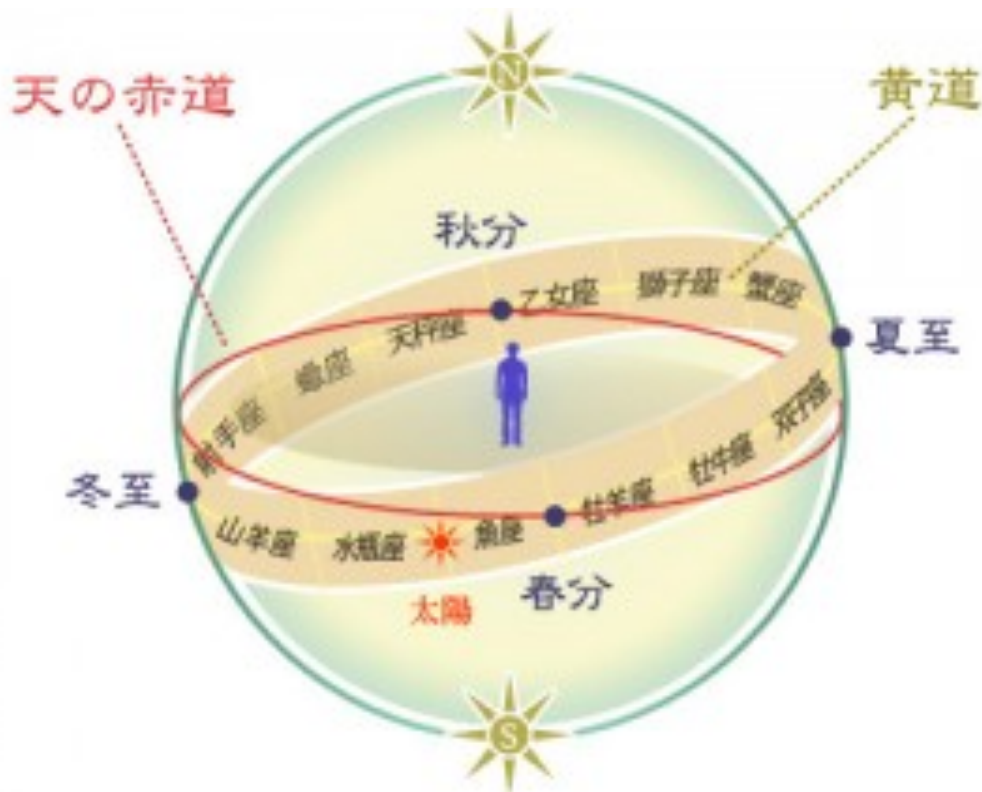
地球から見ると、太陽は1年かけて空をぐるりと一周しているように見えます。この太陽の通り道のことを「黄道」と言います。

占星術では、この黄道を12に分割して、それぞれに住所をつけていると考えます。牡羊座、牡牛座、双子座、蟹座……という具合ですね。この住所のことを「サイン」と呼びます。

あすとろサイコロでは、「すべてはエネルギーでできている」と考えています。アインシュタインの $E=mc^2$ が示すように、物質もまたエネルギーのひとつのかたちである——この見方を、星座にも当てはめて考えるわけです。

あなたが生まれた瞬間、太陽は「牡牛座」という住所にいました。そして、その住所には、その住所ならではの特定のエネルギーが流れている、と考えるわけです。

さらに占星術では、それぞれの住所（サイン）には、そこを管理している「支配星」という惑星がいると考えます。いわば、その住所の管理人さんのような存在ですね。



太陽牡牛座の支配星は「金星」——愛と調和の力

牡牛座という住所の管理人、それが「金星」です。

金星は英語で「ヴィーナス」。そう、あの「ミロのヴィーナス」のヴィーナスです。あの彫刻を思い浮かべていただくと、金星のイメージがつかみやすいと思います。

なめらかな大理石の肌、ゆったりとした曲線、見るだけで心がほどけていくような美しさ。金星は「愛と調和の力」を持つ惑星で、キーワードで言うと「愛」「美・快楽」「豊かさ」。人を惹きつけ、心地よくさせ、満たしていく。そんなエネルギーを持った星です。

エレメントは「地」——固め、現実にするもの

もうひとつ、占星術には「エレメント」という考え方があります。世の中のあらゆるものは「火・地・風・水」の4つの要素からできている、という古代からの考え方で、12星座もこの4つのどれかに振り分けられています。

牡牛座のエレメントは「地（土）」。

土というのは、固めるもの。ふわふわしたものに形を与え、しっかりと現実根づかせるもの。ですから、地のエレメントは「物質」や「現実化」を象徴しています。

太陽牡牛座のエネルギー：「安定させるエネルギー」

では、「愛と調和の力」を持つ金星と、「固めて現実にする」地のエレメントが重なると、どんなエネルギーが生まれてくるのか。

それが、「安定させるエネルギー」です。

具体的には、「物事を継続し、形あるものへと育て、安定させるエネルギー」。

金星の「愛・美・豊かさ」という、目に見えにくい価値を、地のエレメントの力でしっかりと現実の形にしていく。しかも、一瞬で燃え上がって消えるのではなく、時間をかけて根を張り、長く続くものとして育てていく。

牡羊座の火が「スタートさせる」エネルギーだとしたら、牡牛座の地は「育てて、根づかせる」エネルギー。蒔かれた種を、豊かな実りへと育て上げていく大地そのものなんですね。

③ あなたの魂が本当に求めているもの

あすコロサイコロでは、太陽星座が示す“本当の自分”を、ひとことで「～したい」だと考えています。

その反対が「～せなあかん」。こちらは月星座が示す“偽りの自分”です。

では、「安定させるエネルギー」を持って生まれてきた牡牛座の魂は、いったい何を「したい」のか。

それがこれです。

単なる物質的な豊かさではなく、心が満たされる本物の豊かさを創りたい。

💡 牡牛座は「物質の星座」？

牡牛座は、よく「物質の象徴」とか「金運の星座」と言われます。たしかに、牡牛座は物質的な豊かさを求めます。おいしいもの、きれいなもの、心地よいもの、そしてそれを手に入れるためのお金。

でも、ここで大事な問いがあります。

牡牛座は、なぜ物質的な豊かさを求めるのか。その答えは、「物質的な豊かさを得ることで、心を満たしたいから」。

逆に言えば、心が満たされない物質的な豊かさは、牡牛座にとっては豊かさではない。これが牡牛座の本質なんです。

なぜかというと、牡牛座の支配星である金星には「愛」があるからです。心が満たされるというのは、愛情や、温かい感覚で満たされるということ。それがない豊かさは、どれだけ数字が大きくても、牡牛座の魂を満たすことはできません。

🔍 「順番」を間違えないこと

たとえば、お金はたくさん持っているけれど、家庭が崩壊してしまっている。社会的な地位はあるけれど、周りの人間関係は殺伐としている。

よく聞く話ですよ。でも、牡牛座が求めているのは、そういう豊かさではありません。

牡牛座にとっての目的は、あくまで「心が満たされる豊かさ」。物質的な豊かさは、そのための「手段」であり「媒介」なのです。

心が満たされる豊かさ（目的） ← 物質的な豊かさ（手段）

この順番を間違えてしまうと、いくらモノやお金を手に入れても、牡牛座の本当の魂の求めは満たされないんです

🌟 太陽牡牛座の魂が最も輝く瞬間

では、牡牛座の魂はどんなときに一番輝くのか。

安心できる環境を整え、持続可能な価値を生み出し、周囲も自分も豊かにできた時。

ここで、牡牛座の魂は最も輝きを見せます。

この一文には、牡牛座らしいキーワードが3つ詰まっています。

1つめは「**安心**」。安定させるエネルギーを持つ牡牛座にとって、「心が満たされる」とは、何より安心・安全であること。ホッとできる、リラックスできる環境です。

2つめは「**持続可能**」。一時的ではないということです。一攫千金でドカンと大金が入るような豊かさではなく、細く長く、ずっと続いていく豊かさ。

3つめは「**周囲も自分も**」。自分だけではない、ということです。

ここまでで、全体の 1/4 程度の分量です。

人間は、何をもちて心が満たされるのか。

このあと、

それはやはり、人とのつながりができたときです。人間は一人では生きていけませんよね。人との温かさは、人は本当に心が満たされる。

- **あなたの生きる目的・使命**
 - **太陽星座の持つエネルギーの性質**
 - **太陽エネルギーが未熟なままだと起きる5つのこと**
 - **太陽エネルギーの育て方：5つの実践ワーク**
- ここではいろいろな思惑があるとも言われます。でも、その根っこには「分かち合いたい」というビュアな思いもあるはずなんです。なぜへと続きます。続きは是非本編でご覧ください。

自分の周りの大切な人たちと一緒に、安心して、心地よく、豊かに暮らしていきたい。

それが、牡牛座の魂がずっと求めているものなんです。